

令和7年度 全国学力・学習状況調査

# 三田市の結果概要

三田市教育委員会

# 「全国学力・学習状況調査」結果（三田市）

文部科学省によるこの調査は、全国の児童生徒の学力や学習状況を調べ、義務教育の成果と課題を確かめ改善を行うために、平成19年より実施されています。

今年度は令和7年4月14日～17日にかけて実施しました。本市の「国語、算数・数学、理科」と「質問紙調査」の分析結果をお知らせします。

## 1 本調査について

三田市教育委員会では、この調査の結果を受け、三田市学力向上推進委員会を開催し、三田市の結果分析を進めました。

## 2 調査の概要及び公表方法について

(1) 調査の実施日 令和7年4月14日（月）～17日（木）

(2) 調査の対象 小学校6年生（市内20校 959名）  
中学校3年生（市内8校 909名）

### (3) 調査内容

- ①教科に関する調査（国語、算数・数学、理科）
- ②生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

### (4) 公表方法について

本結果概要では、全国や兵庫県の状況を踏まえた上で、教科と領域ごとの結果と、本市の子どもたちの優れている点やつまずきが見られる点について明らかにすると共に、学びのポイントについて総合的に分析した結果の一部を記載しています。

同様に、子どもたちの学習や生活に対する意識・実態等について、「教科に関する調査（国語、算数・数学、理科）」と「生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査」の二つの結果をもとにした、「児童生徒質問紙調査の結果と、教科調査とのクロス集計分析」を記載しています。

また、全国・兵庫県においては、細かい桁によるわずかな差は、学力面での実質的な違いを示すものではないと考えられるとして、各教科の平均正答率は整数値で公表しています。

三田市もこれに準じ、各教科及び領域の平均正答率は、小数点以下を四捨五入した整数値で公表します。ただし、質問紙の数値については、従来通り、小数点以下第一位の数値を公表します。

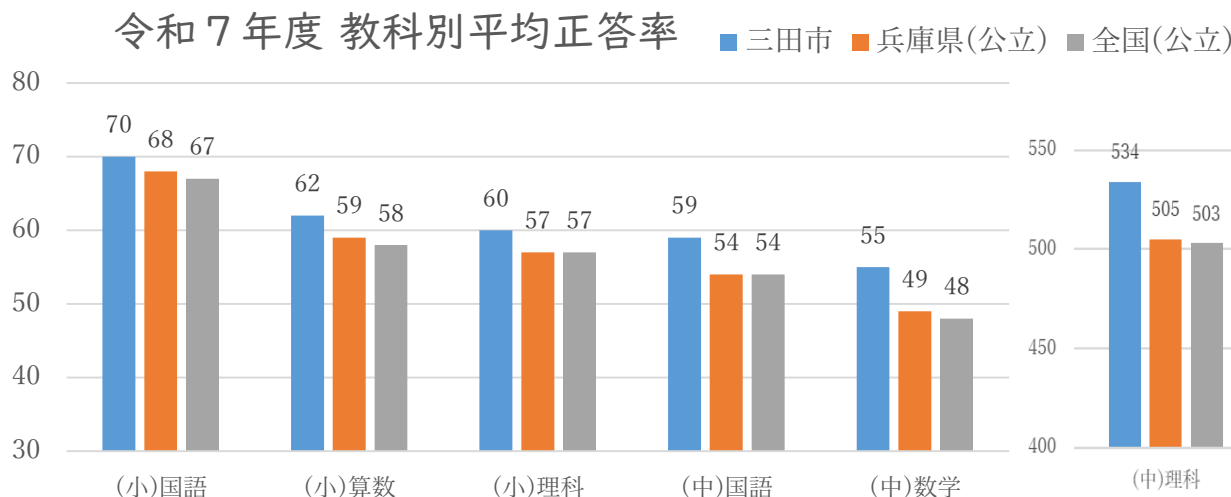


### 3 子どもたちの学力の定着状況について 「国語、算数・数学、理科」全体の調査結果

全国・兵庫県の状況を踏まえ三田市の現状を分析したところ、結果は

**良好**でした。

平均正答率（％）



#### 本市の傾向

※国語、算数・数学、理科の全てにおいて、全国・兵庫県の平均正答率を上回っています。

- ・小学校国語（全国平均より+3ポイント）
- ・小学校算数（全国平均より+4ポイント）
- ・小学校理科（全国平均より+3ポイント）
- ・中学校国語（全国平均より+5ポイント）
- ・中学校数学（全国平均より+7ポイント）
- ・中学校理科（全国平均より+31ポイント ※IRT スコア）

#### <結果の概要>

- 本市児童生徒の国語、算数・数学、理科は、全国（公立学校）の平均正答率をすべて上回り、学力の定着状況は、良好といえます。
- 特に、中学校数学（全国平均より+7ポイント）が良好でした。
- 国語に関しては小学校・中学校ともに、全国平均との差が年々減少傾向にありましたが、今年度は小学校・中学校ともにその差は増加しました。

# 小学校 国語

	0%	20%	40%	60%	80%	100%	
調査結果	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項						
	(2) 情報の扱い方に関する事項						
	(3) 我が国の言語文化に関する事項						
	思考力、判断力、表現力等	A 話すこと・聞くこと					
		B 書くこと					
		C 読むこと					
本の傾向	全領域において、全国の平均を上回っている。 思考力・判断力・表現力等に関する内容では、「話すこと・聞くこと」「書くこと」はいずれの設問も全国を上回っている。						
課題	「読むこと」において、目的に応じて文章と図表を結び付けるなどして必要な情報を見付け、条件に合わせて記述することに課題がある。						

**【読むこと】3三(2)**  
**目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして、必要な情報を見付けることができるかどうかをみる**  
 三田市正答率54.7%(全国56.3%) \*無解答率16.4%(全国16.2%)

**問題と解答**

【資料1】「あたらしい」は新しい形  
「でまじり、まじりたくない」という意味で、私たちは「新しい」と言いますが、でも、大昔の奈良時代には「あたらし」と言っていました。今でも、「新しく」という意味で「あたらし」と言うのでした。ところが、次の平安時代には「あたらし」が「あたら」になりました。「た」と「ら」の順番が入れかわっています。つまり、「あたら」に比べれば、「あたらし」は新しい形です。それが変化して、今は「あたらしい」になりました。

【資料2】「あたらしい」は新しい形  
「でまじり、まじりたくない」という意味で、私たちは「新しい」と言いますが、でも、大昔の奈良時代には「あたらし」と言っていました。今でも、「新しく」という意味で「あたらし」と言うのでした。ところが、次の平安時代には「あたらし」が「あたら」になりました。「た」と「ら」の順番が入れかわっています。つまり、「あたら」に比べれば、「あたらし」は新しい形です。それが変化して、今は「あたらしい」になりました。

【資料3】「あたらしい」は新しい形  
今、あなたは「勉強がとてつもない」といって、言い方をあなたとは思わないで、「100年ほど前の大正時代、作家の芥川龍之介は、「とても安い」といって、新しいと書いています。それより前の時代には、「とてもかかない」というように、「とてもかかない」の形で書かれたというのです。

【資料4】「雨模様」の意味のとらえ方

**正答例**  
 言葉は年月とともに変化することになったとくしました。なぜなら、「新しい」という言葉が、奈良時代には「あたらし」と言われていたように、時代とともに言葉の形が変わることがあるからです。  
 <条件①+条件②【資料2】>

**誤答例**  
 言葉の広がりや深さにも、ふれたいいただきたいということになったとくしました。これからも言葉を大切にしたいと思います。  
 <条件①のみ>

**(51) 国語の授業で、目的に応じて説明的な文章を読み、文章と図形などを結び付けるなどして必要な情報を見付けていますか。**

	0%	10%	20%	30%	40%	50%	60%	70%	80%	90%	100%	
三田市(小)												
全国(小)												

■ 1.よくしている ■ 2.どちらかといえば、している ■ 3.あまりしていない ■ 4.全くしていない

回答グループ別正答率

例えば、買い物や旅行などを計画・立案する際に、目的や条件をもとに、インターネットや書籍などから情報を収集することがあります。調べる時には、キーワードが何かを的確に考えることで、より自分の知りたい情報にたどり着くことができます。必要な情報がどのように関係しているのかを書き込みながら検討し、自分の考えを作り上げていく経験を、発達段階に応じて重ねていきましょう。


# 小学校 算数

調査結果	0 10 20 30 40 50 60 70 80															
	<table border="1"> <tr> <td>A 数と計算</td> <td>三田市: 66</td> <td>国: 62</td> </tr> <tr> <td>B 図形</td> <td>三田市: 61</td> <td>国: 56</td> </tr> <tr> <td>C 測定</td> <td>三田市: 58</td> <td>国: 55</td> </tr> <tr> <td>C 変化と関係</td> <td>三田市: 60</td> <td>国: 58</td> </tr> <tr> <td>D データの活用</td> <td>三田市: 67</td> <td>国: 63</td> </tr> </table>	A 数と計算	三田市: 66	国: 62	B 図形	三田市: 61	国: 56	C 測定	三田市: 58	国: 55	C 変化と関係	三田市: 60	国: 58	D データの活用	三田市: 67	国: 63
	A 数と計算	三田市: 66	国: 62													
	B 図形	三田市: 61	国: 56													
	C 測定	三田市: 58	国: 55													
C 変化と関係	三田市: 60	国: 58														
D データの活用	三田市: 67	国: 63														
三田市	国															
率の儔	全領域において、全国の平均を上回っている。特に、図形を構成する要素、角の大きさについての理解や伴って変わる二つの数量の関係に着目し、課題を解決することができる。															
課題	示された情報から基準量と比較量、割合を正しく捉えることに課題がある。															


**課題学習**

【変化と関係】領域4-（4）  
**日常の事象について伴って変わる二つの数量関係に着目して考察できる**  
 三田市正答率39.1%（全国40.9%）


(4) 家に帰ったあさひさんは、つめかえ用のハンドソープがのっている広告を見ました。  
 広告には、つめかえ用のハンドソープが「10%増量」と書かれています。  
 増量前のつめかえ用のハンドソープの量は800mlです。



増量前  
(800 mL)



2 倍



増量後

増量後のハンドソープの量は、増量前のハンドソープの量の何倍ですか。  
 上の空にはまる数を、下の 1 から 4 までの中から1つ選んで、その番号を書きましょう。

1 0.1  
 2 1.1  
 3 10  
 4 110

**正答**

②増量後のハンドソープの量は、増量前のハンドソープの量の1.1倍である。

**誤答**

①「10%増量」の10%を0.1と捉えているが、増量前の量を1（100%）と捉えていない。

③「増量後の量」は、「増量前の量」の10倍と捉えている。

※増量前の量を基準量1（100%）として、0.1（10%）や、1.1（110%）に当たる比較量について、図と式や言葉で数量の関係を捉えることができたか。

※「増量」など言葉の意味を理解しているか。

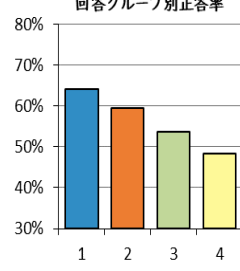
**問題と解答**

**質問紙**

**(56)算数の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できていますか。**

	0%	10%	20%	30%	40%	50%	60%	70%	80%	90%	100%
三田市(小)	47.5				34.9				12.4		5.1
全国(小)	49				34.3				11.8		4.8
	■1.当てはまる		■2.どちらかといえば、当てはまる		■3.どちらかといえば、当てはまらない		■4.当てはまらない				

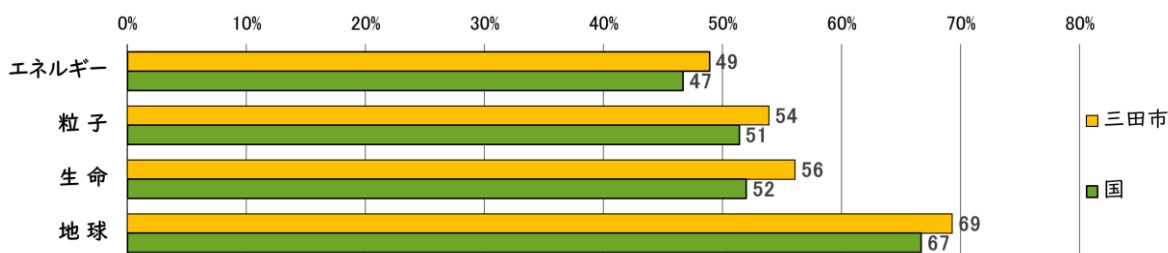
回答グループ別正答率



日常生活と関連づけて、具体的な数量を考える機会を活用していきましょう。量や、値段の比較、「〇割引きでいくらなるのかな?」「□%増量でどれだけお得になるのかな?」等、もとななる量や比べる量が何かを考えて、具体的な絵や図も活用し、算数の学びを普段の生活に広げていきましょう。

# 小学校 理科

調査結果



市の優

全領域において、全国の平均を上回っている。特に、「地球」を柱とする領域では、事実的な知識も身に付いており、条件を正しく制御して実験を行う力が身に付いている。

課題

既習内容や観察・実験の結果を比較して、差異点や共通点をもとに、具体的な条件に着目して新たな問題を見だし、表現することに課題がある。

課題に関する話

【生命】3-(4)  
**レタスの種子の発芽の結果から、発芽の条件について、新たな問題を見だし、表現する**  
 三田市正答率27.0% (全国29.9%)

問題と解答

たかひろさんたちは、レタスの種子を発芽させようとしています。

たかひろさん: レタスの種子を発芽させようと思って、水、空気、温度の条件を下のようにしたのに、1つも発芽しなかったよ。

たかひろさんが行った実験

しめらせた だし篩

〈条件〉

- ・水あり
- ・空気あり (種子が空気にふれている)
- ・温度 (室温)
- ・日光なし (箱をかぶせている)
- ・肥料なし

てるみ: 水、空気、温度のほかにも、レタスの種子が発芽するために、必要な条件があるのかもしれない。レタスの種子が発芽するために必要な条件を、上の〈条件〉の中から1つ選んで調べてみたい。

(4) てるみさんは、調べてみたいことをもとに、新たな【問題】を見つけた。てるみさんは、どのような【問題】を見つけたと考えられますか。その【問題】を1つ書きましょう。

**正答** 次の①②のすべてを記述していること。

① <条件>から、日光または肥料について、1つ選んで記述している。

② 疑問を示す趣旨で記述している。

【正答例】レタスの種子が発芽するために、日光(肥料)は必要なのだろうか。

**誤答**

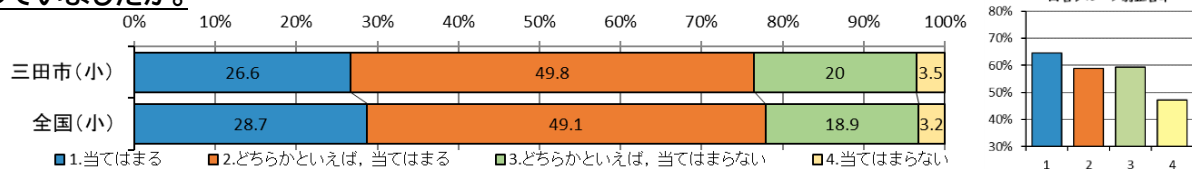
- ①の記述がない 29.3%
- ②の記述がない 35.6%
- 無解答 8.0%

・既習の植物の発芽の条件との差異点や共通点をもとに、新たな問題を見出すことに課題がある。

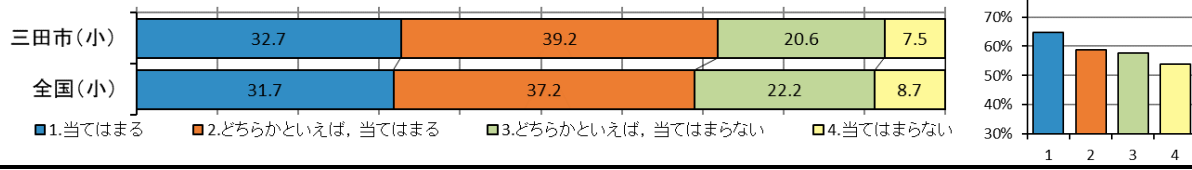
・発芽に関して見出した新たな問題を、問いとして適切に表現することに課題がある。

質問紙

(33) 5年生までに受けた授業では、各教科などで学んだことを活かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか。



(66) 自然の中や日常生活、理科の授業において、理科に関する疑問を持ったり問題を見出したりしていますか。



学校では実験や観察を通して「気づき」から問いを生み出す授業を大切にしていきます。ご家庭でも「どうしてそう思ったの?」「なんでだろうね」といった声かけや、子どもが疑問を持ったときに「調べてみようか」と促すことが、子どもたち自らが疑問や問題を見つけ、解決しようとする思考力と表現力を育てる大きな力となります。

# 中学校 国語

調査結果	<p>(I) 言葉の特徴や使い方に関する事項</p> <p>思考力、判断力、表現力等</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>三田市</th> <th>国</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>A 話すこと・聞くこと</td> <td>58</td> <td>53</td> </tr> <tr> <td>B 書くこと</td> <td>59</td> <td>53</td> </tr> <tr> <td>C 読むこと</td> <td>67</td> <td>62</td> </tr> </tbody> </table>	項目	三田市	国	A 話すこと・聞くこと	58	53	B 書くこと	59	53	C 読むこと	67	62
	項目	三田市	国										
A 話すこと・聞くこと	58	53											
B 書くこと	59	53											
C 読むこと	67	62											
意向	<p>全領域において、全国の平均を上回っている。</p> <p>特に、内容では「書くこと」、問題形式では「記述式」で正答率が高く、記述式の無回答率は全国より低い。</p>												
課題	<p>質問紙では、文章を書いた後に、読み直して修正する推敲については、「あまりしていない」「全くしていない」と回答する生徒が三田市において26.6%であり、課題となっている。</p>												

課題	<p>【書くこと】4-(一)</p> <p><b>読み手の立場に立って、表記を確かめて、文章を整えることができるかどうかをみる</b></p> <p>三田市正答率61.9%(全国57.3%)</p>
問題と解答	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 25%;"> <p><b>三田市の解答状況</b></p> <p>誤答にあるように、間違いには気づいたが、正しい漢字を書くことができなかった生徒が4.7%あり、その他の誤答が7.8%となった。いずれも全国よりも誤答の割合が大きく、無解答率も25%(4人に1人)となっている。</p> </div> <div style="width: 45%;"> <p><b>正答</b></p> <p>専門的な知識があること</p> <p>誤答</p> <p>誤って書かれている「問」を、線で消しているが、「門」と正しく書いていない。</p> </div> <div style="width: 25%;"> <p>手紙の下書きを見直し、誤って書かれている漢字を見つけて修正する</p> <p>4 三上さんは、職場体験活動でお世話になった生花店の店長の犬野さんに、お礼の手紙を書いています。次は、三上さんが推敲している途中の【手紙の下書きの一部】です。これを読んで、あとの問いに答えなさい。</p> <p>手紙の下書きの一部</p> <p>先日、 さて、昨冊は、私たちの職場体験活動に協力してくれありがとうございました。犬野さんをはじめ、お店の皆さんに親切に指導してもらい、多くの学びを得ることができました。この体験活動をするまで、私は、生花店で働くことについて、華やかなイメージしかもっていませんでしたが、皆さんに教わりながら、一つ一つ仕入れた商品を下処理したり、葉や花びらが落ちていないように気を付けたり、花を長持ちさせる方法や花言葉を勉強したりすることを通して、華やかさの裏には、それを支える作業や専門的な知識があることを知りました。</p> <p>二 協力ください。</p> </div> </div>

質問紙	<p>(51)国語の授業で、文章を書いた後に、読み手の立場に立って読み直し、語句の選び方や使い方、文や段落の長さ、語順などが適切かどうかを確かめて文章を整えているか。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>1.よくしている</th> <th>2.どちらかといえば、している</th> <th>3.あまりしていない</th> <th>4.全くしていない</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>三田市(中)</td> <td>26</td> <td>45.8</td> <td>22.1</td> <td>4.5</td> </tr> <tr> <td>全国(中)</td> <td>29</td> <td>44.6</td> <td>20.7</td> <td>4.5</td> </tr> </tbody> </table> <p>回答グループ別正答率</p>	項目	1.よくしている	2.どちらかといえば、している	3.あまりしていない	4.全くしていない	三田市(中)	26	45.8	22.1	4.5	全国(中)	29	44.6	20.7	4.5
項目	1.よくしている	2.どちらかといえば、している	3.あまりしていない	4.全くしていない												
三田市(中)	26	45.8	22.1	4.5												
全国(中)	29	44.6	20.7	4.5												

「推敲(文章を書いた後に、読み直して修正する)」は、国語の学習時間だけでなく、日常生活の中で読み手の立場に立って、自分が書いた文章について捉え直し、分かりやすい文章に整えることが大切です。電子メールや SNS への書き込みなど、電子機器を使って書く時も、「送信」ボタンを押す前に読み返す習慣を意識するなど、修正すべき点を自分で見つけ、実際に修正する経験を家庭でも増やしていきましょう。

# 中学校 数学

調査結果	<table border="1"> <thead> <tr> <th>科目</th> <th>三田市</th> <th>国</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>A 数と式</td> <td>50</td> <td>44</td> </tr> <tr> <td>B 図形</td> <td>56</td> <td>47</td> </tr> <tr> <td>C 関数</td> <td>53</td> <td>48</td> </tr> </tbody> </table>	科目	三田市	国	A 数と式	50	44	B 図形	56	47	C 関数	53	48
	科目	三田市	国										
	A 数と式	50	44										
	B 図形	56	47										
C 関数	53	48											
<p>D データの活用</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>三田市</th> <th>国</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>64</td> <td>59</td> </tr> </tbody> </table>	三田市	国	64	59									
三田市	国												
64	59												
<p>全領域において、全国の平均を上回っている。特に、図形領域の正答率が9ポイント程度高い。無解答率については、全問題において全国平均よりも低い。</p>													
<p>式の意味を読み取り、成り立つ事柄を見だし、数学的な表現を用いて説明することについての設問の正答率が32.7%と低くなっている。</p>													

課題に関する説明	<p>【数と式】6—(2)  <u>式の意味を読み取り、成り立つ事柄を見だし、数学的な表現を用いて説明する</u>          三田市正答率32.7%(全国25.7%) 三田市無回答率19.5%(全国24.9%)</p>
----------	---

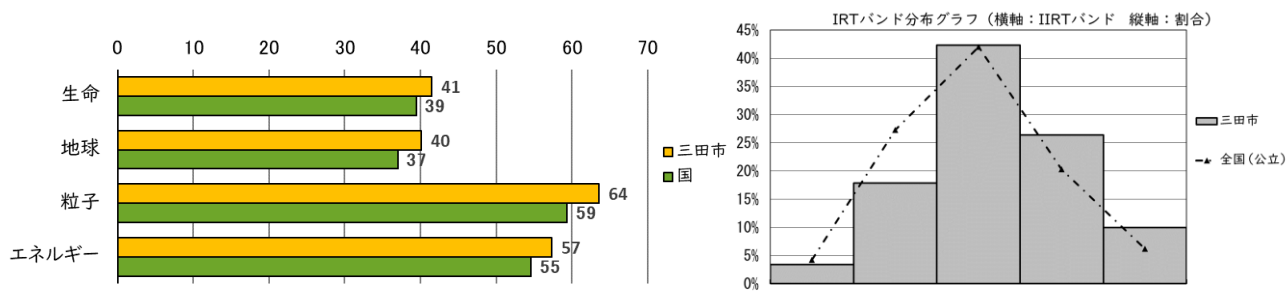
問題と解答	<p>(2) 連続する2つの3の倍数の和は、9の倍数になるとは限らないことに気づいた二人は、連続する2つの3の倍数の和がどんな数になるかを調べることにしました。</p> <p>そこで、二人は、<math>n</math>を整数として、連続する2つの3の倍数を<math>3n</math>、<math>3n+3</math>と表してそれらの和を計算し、それぞれ次のように式を変形しました。</p>	<p><b>正答</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>連続する2つの3の倍数の和は、奇数(2の倍数に1を加えた数)である。</li> </ul> <p><b>誤答</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>連続する2つの3の倍数の和は、3の倍数である。</li> <li>連続する2つの3の倍数の和は、2の倍数である。</li> </ul>
	<table border="0"> <tr> <td style="text-align: center;"> <p>結菜さんの式の変形</p> <math display="block">\begin{aligned} &amp;3n + (3n + 3) \\ &amp;= 3n + 3n + 3 \\ &amp;= 6n + 3 \\ &amp;= 3(2n + 1) \end{aligned}</math> </td> <td style="text-align: center;"> <p>太一さんの式の変形</p> <math display="block">\begin{aligned} &amp;3n + (3n + 3) \\ &amp;= 3n + 3n + 3 \\ &amp;= 6n + 3 \\ &amp;= 2(3n + 1) + 1 \end{aligned}</math> </td> </tr> </table> <p>結菜さんの式の変形の<math>3(2n+1)</math>から、「連続する2つの3の倍数の和は、3の倍数である」ことがわかります。</p> <p>太一さんの式の変形の<math>2(3n+1)+1</math>から、連続する2つの3の倍数の和は、どんな数であるといえますか。「<u>      </u>は、<u>      </u>である。」という形で書きなさい。</p>	
<p>結菜さんの式の変形</p> $\begin{aligned} &3n + (3n + 3) \\ &= 3n + 3n + 3 \\ &= 6n + 3 \\ &= 3(2n + 1) \end{aligned}$	<p>太一さんの式の変形</p> $\begin{aligned} &3n + (3n + 3) \\ &= 3n + 3n + 3 \\ &= 6n + 3 \\ &= 2(3n + 1) + 1 \end{aligned}$	

質問紙	<p>(58) 数学の授業で、どのように考えたのかについて説明する活動をよく行っていますか。</p>																										
	<table border="0"> <tr> <td> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回答</th> <th>三田市(中)</th> <th>全国(中)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1. 当てはまる</td> <td>19</td> <td>21.1</td> </tr> <tr> <td>2. どちらかといえば、当てはまる</td> <td>33</td> <td>37.5</td> </tr> <tr> <td>3. どちらかといえば、当てはまらない</td> <td>33.1</td> <td>28.2</td> </tr> <tr> <td>4. 当てはまらない</td> <td>14.5</td> <td>12.4</td> </tr> </tbody> </table> </td> <td> <p>回答グループ別正答率</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回答グループ</th> <th>正答率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>~68%</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>~58%</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>~50%</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>~45%</td> </tr> </tbody> </table> </td> </tr> </table>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回答</th> <th>三田市(中)</th> <th>全国(中)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1. 当てはまる</td> <td>19</td> <td>21.1</td> </tr> <tr> <td>2. どちらかといえば、当てはまる</td> <td>33</td> <td>37.5</td> </tr> <tr> <td>3. どちらかといえば、当てはまらない</td> <td>33.1</td> <td>28.2</td> </tr> <tr> <td>4. 当てはまらない</td> <td>14.5</td> <td>12.4</td> </tr> </tbody> </table>	回答	三田市(中)	全国(中)	1. 当てはまる	19	21.1	2. どちらかといえば、当てはまる	33	37.5	3. どちらかといえば、当てはまらない	33.1	28.2	4. 当てはまらない	14.5	12.4	<p>回答グループ別正答率</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回答グループ</th> <th>正答率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>~68%</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>~58%</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>~50%</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>~45%</td> </tr> </tbody> </table>	回答グループ	正答率	1	~68%	2	~58%	3	~50%	4
<table border="1"> <thead> <tr> <th>回答</th> <th>三田市(中)</th> <th>全国(中)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1. 当てはまる</td> <td>19</td> <td>21.1</td> </tr> <tr> <td>2. どちらかといえば、当てはまる</td> <td>33</td> <td>37.5</td> </tr> <tr> <td>3. どちらかといえば、当てはまらない</td> <td>33.1</td> <td>28.2</td> </tr> <tr> <td>4. 当てはまらない</td> <td>14.5</td> <td>12.4</td> </tr> </tbody> </table>	回答	三田市(中)	全国(中)	1. 当てはまる	19	21.1	2. どちらかといえば、当てはまる	33	37.5	3. どちらかといえば、当てはまらない	33.1	28.2	4. 当てはまらない	14.5	12.4	<p>回答グループ別正答率</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回答グループ</th> <th>正答率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>~68%</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>~58%</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>~50%</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>~45%</td> </tr> </tbody> </table>	回答グループ	正答率	1	~68%	2	~58%	3	~50%	4	~45%	
回答	三田市(中)	全国(中)																									
1. 当てはまる	19	21.1																									
2. どちらかといえば、当てはまる	33	37.5																									
3. どちらかといえば、当てはまらない	33.1	28.2																									
4. 当てはまらない	14.5	12.4																									
回答グループ	正答率																										
1	~68%																										
2	~58%																										
3	~50%																										
4	~45%																										

子どもは、自分の考えを他者と交流することで、新たな考え方に触れ、新たな気づきを得ます。解答を導く過程では、自分の考えを筋道を立てて詳しく書くことが大切です。

# 中学校 理科

調査結果



市の優

全領域において、全国の平均を上回っている。 IRT スコア 三田市 534 全国 503  
 ※中学校理科については、R7 年度より ICT 端末を使用して回答する CBT 調査が行われ、生徒によって異なる問題が出題されました。そのため、結果も他の教科の平均正答率とは異なり、IRT スコアというもので結果が示されています。IRT スコアは、IRT に基づいて各設問の正誤パターンの状況から学力を推定し、500を基準にした得点で表すものです。

課題

これまで学習した内容をもとに、様々な見方を働かせながら比較し、多面的、総合的に分析して解釈することに課題が見られた。

課題に関する設問

## 共通性と多様性を見方を働かせながら比較し、多面的、総合的に分析して解釈することができるかをみる

【粒子・生命】7-(1)

問題と解答

7 物質を体内に取り入れるための体の構造について探究しています。  
 (1)、(2)の各問いに答えなさい。

次の①から③には、物質を体内に取り入れるための体の構造として共通点があります。

①小腸の柔毛      ②肺の肺胞      ③根毛

1) 上の①から③の共通点と同じ内容を含むものとして、最も適切なものを1つ選びなさい。

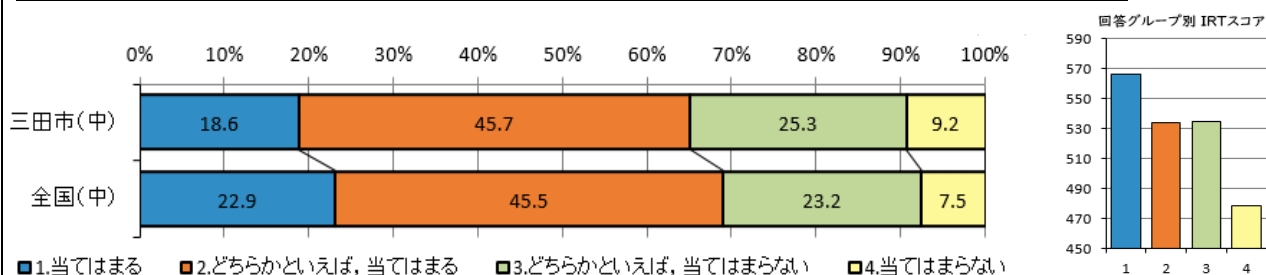
スチールワールをほぐして火をつける      水を使って小さな石などの汚れをとる      カバーガラスを軽く押してから観察する      ビニール袋に手を入れ、水の中に手を入れる

**正答**  
 スチールワールをほぐして火をつける「表面積を大きくする」という体の構造の共通点がある。

**誤答**  
 ・水を使って…25.0%  
 ・カバーガラスを…9.2%  
 ・ビニール袋に…34.9%  
 「反応する場所の面積を大きくしている」という共通点に気づけていない。

質問紙

## (70)理科の授業で、課題について観察や実験をして調べていく中で、自分や友達の学びが深まったか、あるいは、新たに調べたいことが見つかったか、振り返っていますか。



子どもの失敗や試行錯誤を肯定し、家族でニュースや身近な話題を共有することが大切です。「うまくいかなかった」ことを否定せず「なぜうまくいかなかったのか」を一緒に考えたり、ニュースを親子で話題にし「学校で習ったこととどうつながるか」を考えたりすることで、多面的・総合的に分析・解釈する機会を設けましょう。

# 質問紙調査分析

～児童生徒質問紙調査の結果と教科調査とのクロス集計分析より～

児童生徒質問紙調査については、全国値との比較から、三田市の特徴や課題を分析します。

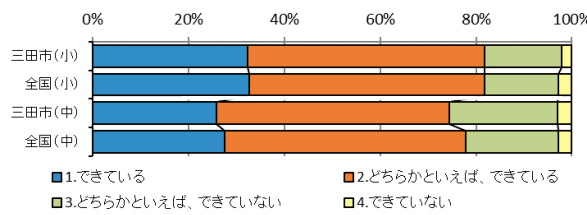
## これからの社会を生き抜く力を育む

社会の在り方が劇的に変わりつつある今、子どもたちが「自らの人生を舵取りする力」をつけることは重要です。独自の発想や視点をもって自己の感性を働かせ、多様な他者と協働しながら、生涯にわたって主体的に学び続ける子どもたちを育てていきましょう。

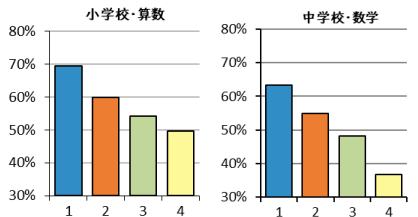


**クロス集計「1」と回答した子どもたちほど、学力テストの正答率が高くなっています。設問の内容と学力には強い関与性があると考えられます。**

**Q.16** 分からないことやよく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか。

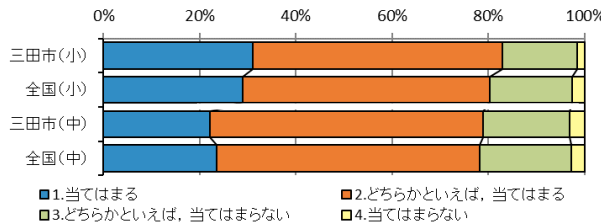


クロス集計(回答グループ別正答率)

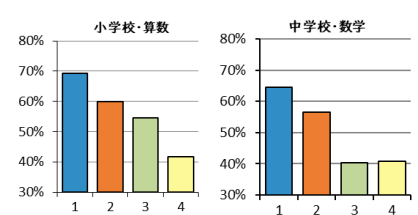


→ 学び方を身に付けている子どもと学力には、相関性があります。

**Q.32** これまでに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか。

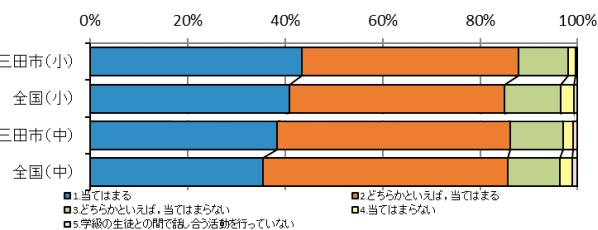


クロス集計(回答グループ別正答率)

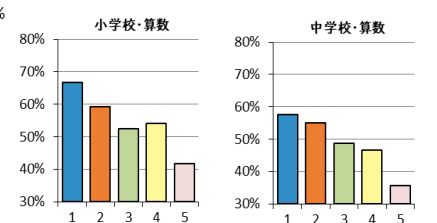


→ 子どもの主体的な学習につながる授業づくりがなされています。

**Q.35** 学級の友だちとの間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり新たな考え方に気付いたりすることができますか。

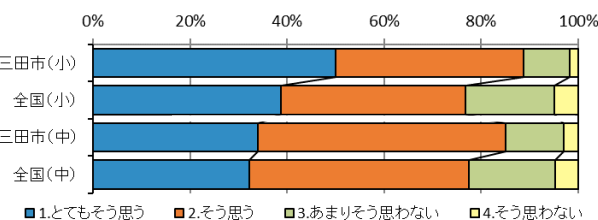


クロス集計(回答グループ別正答率)

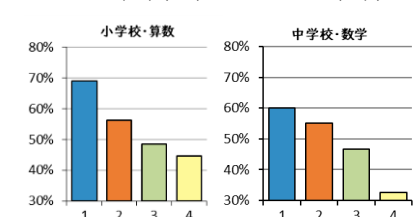


→ 話し合い活動によって、学びが深まることを子どもたちが実感しています。

**Q.29-4** あなたは自分がPC、タブレットなどのICT機器を使って学校のプレゼンテーション(発表のスライド)を作成することができますか。

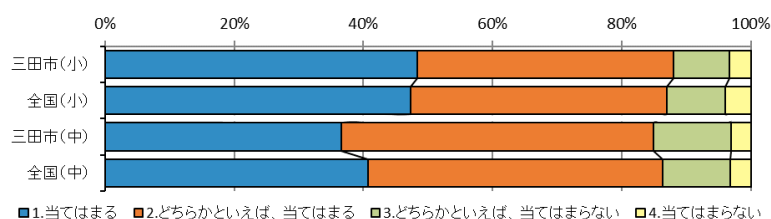


クロス集計(回答グループ別正答率)



→ ICT機器を活用して、視覚的にわかりやすい資料を作成する力が伸長しています。

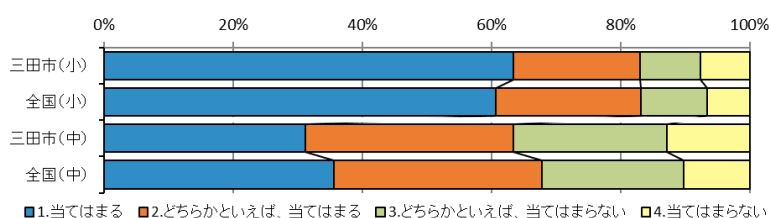
Q.5 自分には、よいところ  
があると思いますか。



→ 肯定的に回答した割合は、小学校で88%、中学校で84.9%比となっています。  
経年変化では、小・中共に増加しており、自尊感情を高める取り組みに一定の成果が見られます。

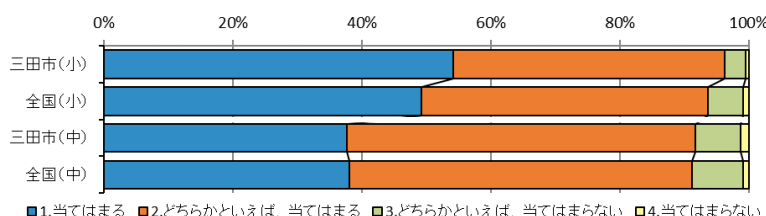
子どもは、身近な人から認められることで、自分に自信を持ち、物事に前向きに取り組むことができます。引き続き、子どもたち自身が自分のよさや可能性を認識し、将来の夢や目標につなげられるようにしていくことが大切です。

Q.7 将来の夢や目標を持っ  
ていますか。



→ 「夢は人を育てる」という言葉があるように、子どもは目標を持つことで、自分で考え自分で行動できるようになります。日常の中で、何をしたいのか、どうなりたいかなど、夢や目標について話し合う機会を持ちましょう。

Q.8 人が困っているとき  
は、進んで助けていますか。



→ 「人と関わりたい」「人の役に立ちたい」と思う気持ちは、自らの体験によってのみ獲得され、社会性の基礎をつくります。人の役に立った、人から感謝されたという経験によって、自己有用感を育みましょう。

社会全体の構造が変化する中で、これからは答えのない課題に直面した時に、自分で考えることに加えて、他者の考えを取り入れていくことが大切です。安心して認めてもらえる雰囲気と、自分にはよいところがあると実感できる学校でありたいものです。

またそのような経験によって自分を大切にできることで、他者への思いやりが生まれ、良好な人間関係を築きやすくなります。人生という大海原でしなやかに舵取りする力をつけ、幸せに生きることにつながるよう、学校や家庭での子どもたちへの関わりを振り返ってみましょう。